

“みんなで取り組む”サル追い払いのポイント

ニホンサルによる農作物被害を防ぐためには、柵による防除や、不要果樹の伐採、個体数の管理など様々な対策がありますが、その中のひとつとして追い払いがあります。追い払いはニホンサルに「人間が怖い」「集落に近づいてはいけない」ということを教育することを目的に行います。

大きな花火を打っても一時的に逃げるだけですが、昼間、集落にいる人が協力して追い払いに取り組むことにより、サルがほとんど近づかなくなるとわれています。

1. 集落ぐるみで追い払う

人はサルを見分けられませんが、サルは人を見分けているといわれています。いろんな人が追い払いをすることで、人間はみんな怖いと思うようになります。誰かが追い払いをしている音を聞いたら集まるようにしましょう。また、いつどこにサルが出てきたかの情報を集落内で共有しましょう。

2. いつでも追い払う

収穫作物がない時期でも見かけたら一年中追い払いましょう。人間にとって価値のある餌かどうかに関係なく、集落でサルが食事をするということは「この場所に来れば餌が食べられる」という追い払いとは逆の教育を行っていることになります。

3. 可能な限り山の方へ追い払う

可能な限りサルが出てきた方向へ追い返します。さらに深く追いかけるほど効果的です。サルの領域である山に一步でも侵入することは、サルにとって大きな圧力となります。また、花火を使った際には着弾箇所周辺の安全確認にもなります。

4. 人間が怖いことを教える

サルは大きな音だけを怖がるわけではありません。サルが一番怖いのは人間です。複数の人間が追うことが大切です。一人より二人、二人より三人で追うと効果的です。

5. 根気強く追い払う

サルの追い払いは教育ですので、出没回数が減るまでには数か月はかかります。焦らずに無理のないようにしましょう。

追い払いを行う上での注意点

- 爆竹や花火を使った追い払いは大きな音が発生します。使用される前に周辺のみなさんと話し合っ、地域での獣害対策への理解を得るようにしてください。
- 早朝、夜間の時間帯は爆竹や花火を使った追い払いは避けてください。
- 追い払い道具は人や建物に当たると危険ですので、周囲をしっかりと確認して安全に使ってください。
- 追い払い用火火は、空気が乾燥している日に枯草や燃えやすいものが多いところで使用すると、火事につながる危険性があるので、消火用水を準備するなど注意してください。
- 追い払い用火火が不発の場合は、火が残っている可能性がありますので注意してください。
- ロケット花火は非常に軽く、風に影響されて思いがけない方向に飛ぶ場合がありますので、風向きには十分注意してください。